

発 言 通 告 表 （ 高校生議会 ）

令和 7 年 1 2 月 2 4 日

順位	学校名	発 言 の 要 旨
1	富士東高校	<p>1. 高校生の視点から考える、安全で快適な自転車と自動車の共存の実現に向けて</p> <p>私たち高校生は、ふだん通学的手段などとして自転車を多用しています。その中で、高校生の自転車運転が危険であるという苦情が学校に対して頻繁に寄せられています。私たち自身の交通ルールやマナーに関する意識の低さが、こうした事態を招いていることについては真摯に受け止めています。</p> <p>一方で、私たちが通学中に危険を感じる場面も少なくありません。例えば、ロードサイドの駐車場に出入りする車がこちらをよく見ていなかったり、車道幅が狭く、車と接触しそうになる危険な箇所も多く存在しています。交通安全の問題は、自転車に乗る私たち高校生だけでなく、車を運転する大人側の交通意識、そして市内の脆弱な道路インフラにも原因があると考えます。</p> <p>そこで、安全で快適な交通環境の実現のため、自転車と自動車の共存をテーマに、以下の 3 点について質問します。</p> <p>(1) 高校生の自転車マナーの現状に対する市の認識と、具体的な対策を伺います。また、自動車運転者に対する対策を行っているか伺います。</p> <p>(2) 安全な自転車の走行空間を確保するという視点から、自転車・自動車・歩行者の共存を実現させるための対策について伺います。</p> <p>(3) 自動車への依存を減らし、交通全体の円滑化のため、富士市でシェアサイクル事業を行うことを提案しますが市の見解を伺います。</p>

順位	学校名	発 言 の 要 旨
2	吉原高校	<p>1. 北里アリーナ富士周辺の活性化について</p> <p>私たちは中学生の頃、バレーボール部とバスケットボール部に所属していました。今年完成した北里アリーナ富士のような設備が整った体育館で、私たちも試合をしてみたかったと感じています。このようなきれいで魅力的な体育館を多くの人に知ってもらい、利用してもらうことで、運動する機会が増えてほしいと考えています。そのため、私たちは北里アリーナ富士を訪問し、施設の目的や設備、行われているイベントなどについて施設の方にお話を伺い、見学させていただきました。この経験を踏まえて、北里アリーナ富士周辺の活性化について質問いたします。</p> <p>(1) 大きな試合が開催される際、多くの観客が訪れる一方で、駐車場周辺が混雑し、交通機関のバスやタクシーの便も限られている状況です。そのため、公共交通やシャトルバスを充実させることや、駐車場を増やすことによってより多くの人々が安心して来場することができるのではないかと考えます。このような取組について、市としてはどのようにお考えでしょうか。</p> <p>(2) 北里アリーナ富士周辺は、自然が豊かでとてもいい環境である一方、試合の合間や待ち時間、また運動後の空腹時など、周囲に飲食店が少なく不便だというお話を市民の方から直接伺いました。この点については市として今後、飲食スペースの整備や利便性の向上などの計画はあるのでしょうか。</p> <p>(3) 現在、北里アリーナ富士のイベント情報は主に公式ウェブサイトを通じて発信されています。しかし、その情報が富士市民に十分に浸透していないのではないかと考え、本校で「北里アリーナ富士で行われているイベントを知っているか」という調査を行いました。その結果、9割以上の生徒から「知らない」との回答がありました。この結果を通じ、さらなる周知が必要と感じましたが、市としてはどのような取組を検討していますか。</p>

順位	学校名	発言の要旨
3	富士市立高校	<p>1. 空き家の利活用による地域活性化について</p> <p>今回私たちは、富士駅北口周辺から富士市役所までの間の地域（富士駅北地区、吉原地区、伝法地区）に存在する空き家を利活用する計画を考えました。現在、該当するエリアの空き家は、管理されている家が171戸、管理がされていない家が47戸存在しており、近隣住民、所有者本人（または相続人）、地域全体や自治体の困り事や課題となっています。これらの問題を解決するために、私たちは「空き家を改築し、民泊＋学びの拠点として運営すること」を見据え、本市の取組について、以下質問します。</p> <p>(1) これまでの空き家政策は短期的なものが多く、その政策の効果は一時的なものだと私たちは感じていますが、実際にどのような効果が得られたのでしょうか。また長期的にはどのような取組をしようと考えていますか。</p> <p>(2) 富士市において民泊に関する取組は行っていますか。</p> <p>(3) 観光施設及び宿泊施設が海外からの観光客に対してどのように対応しているか、特に日本の文化や富士市の文化を体験できる取組をしていますか。</p>

順位	学校名	発言の要旨
4	富士高校	<p>1. 安全に楽しく夜道を歩こう</p> <p>私たち富士高校周辺では、通学や塾・コンビニの利用、ジョギングや犬の散歩など、夜遅くまで多くの人々が行き交っています。特に、用水路や潤井川沿いの土手は夜間の視界が悪く、大変危険です。</p> <p>今年度、本校PTAは地元町内会の御協力の下、通学路の中でも特に危険と考えられる2か所に街灯を設置しました。しかし、街灯の設置には高額な費用がかかる上、維持費も継続的に必要です。学校周辺の通学路だけを見ても、防犯灯の数は十分とは言えません。</p> <p>そこで私たちは、より安価で維持費の負担が少なく、夜道の安全性を高める方法を検討しました。また、私たち自身が毎日夜道を通行する中で、不安や恐怖心を和らげるような、楽しく親しみやすい工夫の必要性も強く感じています。このような背景を踏まえ、市内の防犯灯について以下の点を伺います。</p> <p>(1) 令和7年度の防犯まちづくり費は、市内の防犯灯のLED化率が91%に達したことを受け、前年度から約630万円減額されました。現在、市内に設置されている防犯灯は2万1508灯で、そのうち町内会が所有しているものは2万1215灯です。このように予算が減額されたということは、市としては現在の防犯灯の設置数で十分とお考えなのでしょうか。今後の設置方針について、見解をお聞かせください。</p> <p>(2) 現在、富士市では防犯灯の新規設置や電気代にかかる費用を、設置場所の町内会が負担する仕組みとなっています。市からは、1灯当たり新規設置費用として1万1000円、電気代として年額1200円の補助が出ていますが、補助を利用しても町内会は一灯当たり3万円以上の費用を負担しなければなりません。このため、防犯灯の必要性を感じながらも、設置をちゅうちょしている町内会もあります。今後、人口減少や高齢者の単身世帯の増加、町内会への加入率の低下などにより、町内会の負担はさらに重くなることが予想されます。また、電気料金の高騰も懸念される中、市が防犯灯に対して支出する補助金の総額も増加する可能性があります。このような状況を踏まえ、夜道の安全確保のために市民にさらなる負担を求めることや、市が負担する補助金の増加が見込まれることについて、市として今後どのように対応していくお考えか、お聞かせください。</p>

順位	学校名	発 言 の 要 旨
5	富士見高校	<p>1. 富士駅北口再整備事業と商店街のにぎわいについて</p> <p>私たちが通う富士見高校は、富士駅の近くに位置しており、生徒は通学路として富士駅を、また富士本町商店街を利用しています。しかし、富士本町商店街はいつも人通りが少なく、閑散としているように感じます。前回私たち富士見高校は、富士駅北口再整備事業と商店街のにぎわいについて質問いたしました。私たちの質問に基づき、市に対応していただいたこともあり、改善が見えたこともある一方で、新たな疑問点も見えてきました。</p> <p>今後も、富士駅北口周辺が、私たち富士見高校の生徒を含む多くの方にとって居心地のよい場所であるように、また、今後の再整備事業によって、もっと活発な街になるように強く願っています。</p> <p>そこで、以下の質問をします。</p> <p>(1) 富士駅前や富士本町商店街は、私たち富士見高校の生徒をはじめ、近隣の学校の小中学生の通学路にもなっています。しかし、富士駅前や商店街の居酒屋の前には灰皿が置かれ、特に夕方にかけて喫煙している方が多く見られます。未成年や非喫煙者がたばこの煙を吸ってしまう環境になっています。多くの方が安心して立ち寄れる場所を目指すためにも、受動喫煙の防止に向け、市はたばこに対してどのような取組を行っていますか。また、富士駅北口再整備事業においては分煙にどのように取り組んでいきますか。</p> <p>(2) 昨年の富士見高校の質問・要望に対し、富士駅南口の屋根のあるエリアに新しくベンチを設置していただき、ありがとうございます。一方で、本年5月より富士駅北口再整備事業に伴う解体作業が開始され、駅周辺のベンチや休憩のために立ち寄れるスペースが減少していると感じ、不便を感じるが増えました。再整備事業の計画を拝見すると、ベンチなどを含めた座れる場所や、様々な年齢層の人も活用できる空間が多くできるとされていますが、再整備事業が終わるまでの期間だけでも、暫定的にバスの停留所周辺や、富士駅北口周辺にベンチを増やすなどして、多くの方が気軽に立ち寄ることができるスペースを生み出すことはできないでしょうか。</p> <p>(3) 現在、富士駅北口の公益施設の開発が開始され、様々な商業施設の誘致検討が進んでいると思いますが、注目されるのは複合商業施設や新しい駅の公益施設の情報が主立っており、富士駅北口周辺の活性化に向けてのプランが見えてこないように感じます。特に、富士本町商店街を中心とした地域の方々との連携はどの程度進んでいるのでしょうか。エキキタテラスのようなイベントにとどまらず、日常的に富士駅北口周辺の活性化を促すために、どのような政策を展開していく予定があるのでしょうか。</p>

順位	学校名	発言の要旨
6	吉原工業高校	<p>1. 自転車通学者の安全を守りたい～ヘルメット着用促進に向けて～</p> <p>本校の自転車通学者は、334人登録されている。全校生徒が392人なので、約85%になる。近隣他校の様子をお聞きしても、ほぼ同様の数字だ。地区の80%前後の高校生が、毎朝8時～8時30分までの間に各学校に大移動する。同じ時間帯は通勤時間でもあり、多くの車が仕事先に向かって大移動する。この状況は、事故が多発してもやむを得ない状況だと考えられる。</p> <p>本校の周りは、自転車専用レーンがない道路が多い、道路が狭く走行に適さない車道を走らざるを得ない場所が多い、路面が荒れているなど、走行するのに好ましくない道が多いと感じている。道路を舗装する、拡幅するなどの対策については、富士市が既に計画的に進めていると承知をしており、時間がかかるが改良されていくものだと考えている。</p> <p>一方で、その道路を使う側が、どのように道路を使っているかを考える必要もある。自動車側に関しては、狭い道路にもかかわらず、スピードを出して運転している、自転車との車間距離が近い、スマホを見ながら運転している、夜間ハイビームをずっとキープしているなどが挙げられる。自転車側に関しては、並列通行、一時停止が必要な場所で止まらない、後方確認しないで道路を横断する、イヤホン・スマホを使用して運転しているなどが挙げられる。つまり、両者ともルールを守れない、マナーが悪い場面がイメージされる。</p> <p>このようなことがなぜ起こってしまっているのかを考えてみた。問題を自分事として捉えられない、自転車の問題として考えると、軽く考えてしまう、事故が起きた時をイメージできないなどが挙げられた。また、規則があいまいな表現であり、分かりにくいということもある。例えば、イヤホンに関する規則（安全運転義務違反の一部）だ。「周囲の音が聞こえなくなる状況」の基準があいまいで、守らなければならない側としては、許される部分があるのかと思ってしまう。</p> <p>今回、テーマをヘルメット着用促進とした。現在、着用は「努力義務」となっているが、この言葉もあいまいだ。静岡県では、来年度の高校入学生から、所持を義務化する動きがある。着用するためには、まず持ってもらうことがスタートという考えだと思うが、着用につながるかどうか不透明だ。ヘルメットが話題に上がるようになったのは、間違いなく命を守る必要が出てきたからだと思う。ヘルメットを着用していれば死につながらなかった事故が少なくないこともあり、着用を必要とする流れになっているのだと思う。昨年、富士市議会でも、ヘルメット着用について議論されている。自転車事故数が最も多い高校生年代に最も着用してもらいたい、着用率が低い。髪型が崩れる、荷物になるなど、着用するメリットよりもデメリットに感じる人が多いからだ。</p> <p>私たちは、命を守るために、ヘルメットは着用するべきだと考える。その方法が何かないか考えてみたので、私たちの案が生かせる場面はないか考えていただきたい。</p> <p>そこで以下3点について提案する。</p> <p>(1) ヘルメットを着用することは命を守ることに直結することなので、着用を義務化することを市がルールとして制定する。</p> <p>交通ルールはあいまいな表現よりも、きちんとした言葉で表したほうが利用者に伝わる。自動車のシートベルトもほぼ100%の着用率になってい</p>

順位	学校名	発言の要旨
6	吉原工業高校	<p>る。ヘルメットも同様のことが言えると思う。また、事故が多い富士市だからこそ、他の市町とは違うアプローチをする必要があると考える。</p> <p>(2) ヘルメットデザインコンテストを行い、ヘルメットに関心を持たせる。</p> <p>吉原工業高校は、工業高校ということもあり、「ものづくり」ということを考えることが多い。今回も、どんなヘルメットならかぶるか、ということが話題に上がった。ヘルメットデザインコンテストは、既にいくつかの都道府県や学校で行われているが、ヘルメットに興味関心を持ってもらうためには有効なイベントになっている。それが着用につながり、事故数減につながってくれば目的も達成できる。</p> <p>(3) 富士市公式LINEで送られてくるクーポンを活用する。</p> <p>「ヘルメット着用で来店された場合は、〇〇円値引きしますクーポン」を発行する。これを、富士市公式LINEのクーポンを使わせていただき、実施するという案である。(1)の案は、厳しく対応していくものだが、(3)はその反対のアプローチだ。御褒美をもらえることで着用率を上げるという考え方である。</p>